

学年	教科等	単元名	日時
第6学年	体育科	パワーとスタミナ（体の動きを高める運動）	平成31年2月1日（金）3校時
本時における「深い学び」	「ぶら下がる」「支える」「押す」のようないろいろな力強い動きを高めるその過程で、「力強い動きを生み出す鍵となるのは身体の部位に力を入れることだ」と気付く姿が見られる学びである。		

身体の声を生かした言葉かけ

子どもの身体の声に耳を傾け、適切な「言葉かけ」をする

「登り綱・ターザン」における言葉かけ（肯定+助言）

- 行い方が分かったつもりの子ども → 「顔よりも上で綱を持っていたね。」「綱を足でも挟んでみよう。」
- 綱に掴まり身体を保持できない子ども → 「手でしっかりと綱を掴んでいたね。」
- 「わき」を締めて、身体をカチツとしてみよう。」

身体の対話を生む学習指導

動きの習得段階の異なる仲間との身体の対話

バディ（動きの習得段階の異なる2～3人組）での活動

バディの動きを観る、自分でやってみる。

- 仲間を観ているから、自分やバディが場を変える。
- 仲間を観ているから、言語での対話生まれる。
- 仲間を観ているから、非言語の対話で気付ける。



身体を見つめる学習指導

学級をABの2つに分け、ここの共有と課題への再挑戦をする活動

仲間の動きを観る、自分でやってみる

- [A 伝える側]
  - 自らの動きを身体で観せたり、言語化したりする（アウトプット）。
- [B こつを聴き、再挑戦する側]
  - 仲間から新たな視点をもらい（インプット）、再挑戦する。

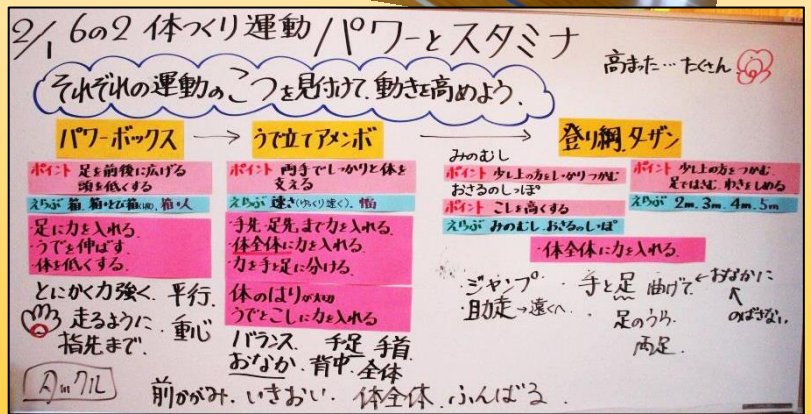
<登り綱・ターザンの場合>

- A「腕だけではなく、わきを締めるといい。」「観て、こんな感じ。」
- B※挑戦するができない。「もう一回みせて。」
- A「(自分は)どこに力を入れているんだろう?」「そうだ!背中もピンと伸ばすと力が入るよ。」

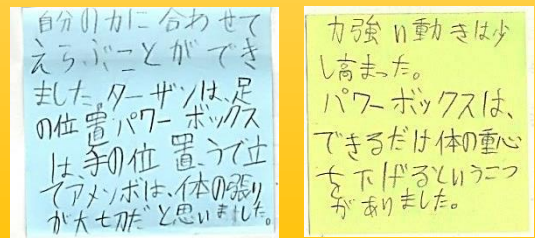
・・・一往復で終わらない身体の対話生まれる

本時の学習で高めた動きの共通性への気付き

- T: 力強い動きは、他に何があるかな?
- C: タックル。
- T: タックルするときは、どうしたらいい?
- C: 前かがみになる。勢いをつける。体全体に力を入れる、足で踏ん張る。
- T: これまで挑戦してきた、3つの運動と似ているね。



～子どもの付箋紙でのふりかえり（前時と本時の比較）



前時

本時

授業をふりかえって

- こつを見付けることを意識させ、それを共有させることで、仲間との対話だけではなく、自分の身体との対話を生み、学びを深めることにつながった。
- 学びの深まりを実感させるためには、何をどのようにふりかえらせるのが重要である。「タックル」は、経験がない子どもがほとんどである。実感を伴った学びを関連付けることで、つながりに気付くことが期待できる。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp



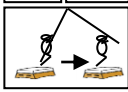
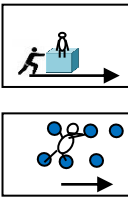
○ 指導計画（5時間）

時間	1	2	3（本時）	4	5
単元のめあて	いろいろな動きのこつを見付け、力強い動きや動きを持続する能力を高めよう。				
内容	○準備運動（ストレッチ） ○運動課題の確認 ○用具や場の確認				
	○オリエンテーション	○登り綱 ○ターザン ○パワーボックス ○腕立てアメンボ	○登り綱 ○ターザン ○パワーボックス ○腕立てアメンボ	○短縄 ○長縄	○短縄 ○長縄
	○用具や場の片付け ○学びのふりかえり				

○ 本時の目標

「ぶら下がる」「支える」「押す」動きを高めることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 身体をほぐす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「魔法のストレッチ」【柔】</li> <li>○ いろいろペア縄跳び【巧・持続】</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ストレッチをしたり、ペア跳びに挑戦させたりすることで、実施前や前時との比較から伸びを実感することができるようにする。</li> </ul>
<p>2 本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のめあて</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いろいろな力強い動きのこつを見付けて、動きを高めよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時、動きが高まった子どものふりかえりを紹介し、こつを発見していることを確認させることで、こつを見付けようとする意欲を高めたい。</li> </ul>
<p>3 力強い動きを高める運動1に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3つの運動</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① 「登り綱」【力】、「ターザン」【力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行い方：ABを個人で選択する。</li> </ul>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>② 「パワーボックス」【力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行い方：跳び箱の上からロープを使って、反対側の跳び箱に移動（2m程度）する。</li> </ul>  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>③ 「腕立てアメンボ」【力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行い方：フラットマーカーに両手、両足を乗せ身体を支えながら横に進む。</li> </ul>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移動の仕方は、教師がカードを引き、「おんぶ」等の動きを指定することで、楽しませながら力強い動きを高めることができるようにする。</li> <li>○ 綱に長く掴まることが苦手な子どもに配慮し、2mから挑戦させる。段階的に距離を伸ばしていくことで、諦めずに挑戦することができるようにする。</li> <li>○ 運動観察者にタイムを測らせ、複数回挑戦させることで、どのように押せば、箱に力を上手く伝えられるのか、こつを見付けることができるようにする。</li> <li>○ 動きが高まってきている子どもには、「どうしたら、さらに力強さが高まりそう？」と問うことで、マーカーの間隔を広げる等の発想を引き出したい。</li> </ul>
<p>4 力強い動きを高める運動2に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動きのこつの伝え合いと課題としている動きへの再度の挑戦</li> </ul> <p>【こつの共有の仕方】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>① チームAは、自分がこつを見付けることができた運動の場を1つ選び、移動する。</li> <li>② チームBは、課題のある運動の場へ移動する。</li> <li>③ チームAがチームBに言葉と動きでこつを伝える。</li> <li>④ チームBは、伝えられたこつを基に、もう一度挑戦する。 ※ 挑戦後、チームAとBの立場を交代し、こつの共有をする。</li> </ol> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級を2つに分け、左のようにこつを共有させる。Aは動きのこつを発表させることで、自分が高めた動きのこつを確かめることができるようにし、Bは動きを高める新たな視点と出合えるようにする。</li> <li>○ こつの伝え合いと課題としている動きへの再挑戦を同時に行わせる。もう一度挑戦する側は、出合った新たな視点をすぐに試すことができ、伝えた側は、もう一度挑戦する仲間の身体を基に動きを高めるさらなる言葉かけができるようにする。</li> </ul>
<p>5 学びをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 力強い動きは高まったか</li> <li>○ それぞれのこつは何か</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「登り綱」「ターザン」 身体の真ん中に力を入れる 等  「パワーボックス」 足の裏でふんばって床を押す 等  「腕立てアメンボ」 腹に力を入れる 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動きの変容と試してみたこつについて問うことで、こつを生かすことが力強さを高めるということを実感させたい。また、力強い動きをするためには、それぞれの動きに合った「身体の部位に力を入れる」という共通した意識を共有できるようにする。</li> </ul>

○ めざす子どもの姿

こつを生かすと、前よりも力が出せた。ターザンでは、綱に掴まるときに腕や腹、足に力を入れて身体をカチッと固くすると、長い時間ぶら下がることができたぞ！



【知識・技能】